



なした〜？

教育長のつぶやき

No.114

2025.2/12

「栄村良かったよ〜」とお褒めの言葉をいただきましたが…

一昨日、「信州学び円卓会議」の「共創（ともつく）フォーラム」が長野市芸術館で行われ150名ほどの参加がありました。阿部知事や武田教育長のほか元長野県教育長伊藤学司氏（現在文科省高等教育局）、風越学園岩瀬校長などが参加していました。

TOCO-TON の実践目標について12団体が各2分で発表しましたが、私は一番最後の発表順でした。なんか硬い話や制限時間が大分過ぎ、何度もSTOPをかけられても最後までしゃべり続ける方もいて、子どもたちが多くいる前で余り教育的ではないな〜と感じました。

ゲストの方からも、「もっと子供にもわかる言葉で発表したほうがいい」とか「資料が細かすぎて画面でも見えない」とクレームが飛ぶ始末。せっかく子どもが中心の学びに変化しようとしているのに、これでは…というお話が出ました。各団体の発表はそれぞれの教育長や校長、教育委員会職員が説明したので、無理はないのかもしれませんが、まずここからかな？という感じも受けました。次々に会の様子がネット上でリアルタイムに書き込まれ、全員が会場のモニターで読むことができますが、やはりクレームだらけ。そんな中で「栄村さんが最後締めてくれてよかった」「栄村さんナイス！」「地域とのつながりが強いということがとても素敵だなと思いました」「揃えない！いいですね」などと書き込まれたばかりか、その後の休憩や名刺交換でも皆さんから「一番良かったよ」「流石だね」「一番最後が栄村でよかった」「このまえのWEB会議の話もよかったけど今日もとてもよかった」などお褒めの言葉をたくさんいただき上機嫌で帰路につくことができました。

私の中では、それ以上に風越学園の子どもたちの素晴らしい姿や、県内高校生が発する言葉のすごさなど子どもたちの姿に大変感動できる一日となりました。

「あなたの理想とする教育は？」について各グループで話し合いましたが、各グループのメンバーが実際 TOCO-TON に関わっていくだけに、理想が現実になるように推進できるかどうか今後の分かれ道になると感じました。

会の半分以上を割いた各グループでの話し合いの進行を務めたのは、風越学園の小6と中1少女でした。そのほかにも最初に行ったアイスブレイクも小中学生の女子が3人ほどで行なってくれ、大変見事な司会ぶりで会場は一気に盛り上がりました。こういったイベントがあるという話を子どもたちにしたところ、進行は自分たちがやりたいということで自分たちが計画し司会をやっていたようですが、本当に見事な司会で高校生であってもここまでできないだろうと感じるほどでした。

数年前、僻地教育の全国大会長野大会でお世話になった、S 教育次長とも久しぶりに話をしました。「あの大会やその数年目からの栄小の取り組みが全県に及ぼした影響が大きく、今回の TOCO-TON にも繋がっている。今回は下さんも戻ってきたので丁度いいタイミングだったので、また宜しくね」という言葉もいただきました。

みんなで学校を創ろう！で話し合われたシステムだけでなく、今後は実践部分でも先生方とより良いものを目指していく気持ちがつくれた時間になりました。

